

「授業備品」N043 H. 29. 10. 2 「新学習指導要領改訂のポイント」「付けたい力」

夏の研修で石川県教育センターに行く機会があった。そこで私自身が学んだことがある。各地で指導要領改訂の趣旨の説明があると思うが、先行して学んで欲しい。

◎新学習指導要領改訂のポイント（石川県教育委員会の冊子より）

平成29年3月31日新しい学習指導要領が告示されました。今年度はその周知・徹底の年です。以下に改訂のポイントをダイジェストで示します。この機会にぜひ一度、新しい学習指導要領に目を通してみてはいかがでしょうか。

■ポイントその1 枠組みの見直し

総則の位置づけが、6点に沿って抜本的に見直され、以下の場所に示されています。

- ①「何ができるようになるか」→第1小（中）学校教育の基本と教育課程の役割
- ②「何を学ぶか」→第2教育課程の編成
- ③「どのように学ぶか」→第3教育課程の実施と学習評価
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」→第4児童（生徒）の発達の支援
- ⑤「何が身に付いたか」→第3教育課程の実施と学習評価
- ⑥「実施するために何が必要か」→第5学校運営上の留意事項

■ポイントその2 資質・能力の3つの柱

教科等の目標や内容が、以下の3つの柱に基づき、整理されました。

- ①「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く「知識・技能」の習得）
- ②「理解していること・できることをどう使うか」（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

※それに伴い評価観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に変わります。

■ポイントその3 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」という言葉が何度も出てきます。各教科の特質に応じて、どのような学びを目指すのか、読み取ることが大切です。

◎付けたい力（本時の指導目標や評価計画を一文にして黒板の外に貼る）

これまで、授業を組み立てる重要なことは、指導方法に目を向けることをお伝えしてきた。だが、もう一つの課題が見えてきた。学習課題の設定もうまくいくようになったが、本時の授業を行う上で、「何のために教えるのか」「どんな力を付けたいのか」ということがはっきりしていないことだ。授業者から本時の振り返りを聞くと、「本時の目標の紹介」「目標の達成度」「指導案の評価基準」に関わること等の言葉が聞かれないのがその一つだ。授業者に付けるべき力の意識が薄いことが原因であろう。

まず、学習指導案が複雑になっていることだ。多くの授業者は、学習指導要領の「指導目標」「指導内容」をまず見る。その中から「付けたい力は何か」という指導目標を考える。「この単元（題材）を通して、子供にどのような力を付けるのか」ということをしっかり押さえる。これが、単元（題材）目標になる。その後、単元（題材）の指導計画を作成する。また、単元（題材）の評価計画を作成する。単元を通し、「関心・意欲」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」等、単元（題材）目標に準拠して、それぞれの観点に応じた評価をする。1単位時間に全観点を評価することは不可能であるので、どの観点を評価するのかということを明らかにしてねらいを明確にする。何とも複雑な経路を通る。仕方がないことだ。だが解決の方法を考えた。

本時の指導目標や評価計画を一文にして黒板の外に貼る。文は教師用語だが子供も見えよう。このことにより学習課題の設定の際に子供が利用をしたり、まとめにもその文が反映されると思う。また、授業者は、授業の振り返りで最初にこのことを説明する。学習課題と指導目標等との関連が図れるだろう。